

後援会だより

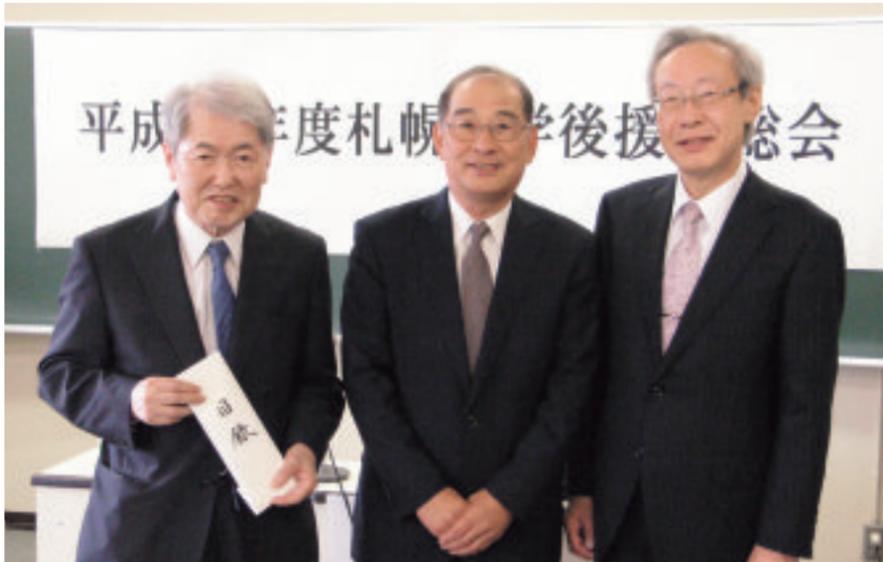
札幌大学と保護者を結ぶホットライン

札幌大学後援会広報誌 Vol.43

発行/札幌大学後援会事務局 発行日/2014年10月30日 〒062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1札幌大学内 TEL(011)852-9749(直) http://blg.sapporo-u.ac.jp/koenkai

平成26年度札幌大学後援会総会及び保護者懇談会

保護者の皆さまと大学を結び、大学の今と学生の明日を語る！
平成26年度札幌大学後援会総会、保護者懇談会



左から桑原学長、猪狩後援会会長、佐藤理事

それを活用した補助事業が報告され、その内容が出席された保護者の満場一致で承認されました。続いて平成25年度の収支決算報告書を提示し、資金運用の健全性が監事より報告されました。



新しく広報委員長に就任された「北崎義弘」氏

議事は活動報告から審議事項へ。平成26年度事業計画について説明を行い、学生の課外活動や学外研修への援助、さらに資格取得や受験対策への補助支援を報告。今年度も外国人留学生への援助を含め、各種補助事業の継続が発表されました。また、今後の保護者懇談会の開催計画も併せて発表され、全ての計画が全会一致で承認されました。充実した内容により、総会は実に有意義な時間となりました。

「学生生活の一層の充実を願い、援助金を贈呈」

総会に続き、大学への「援助金贈呈式」が行われました。多くの役員が出席するなか、代表として桑原真入学長に目録を贈呈。桑原学長は「50周年に向け、今後とも後援会さまと一体となって、ご子女の健全な育成と、大学のますますの発展を目指していきたい」と謝辞を述べられました。後援会はずでに今年度の活動をスタートしており、今後も大学および保護者の皆さまとともに、創立50周年に向けて、ますます充実した活動を展開していきたいと考えています。

札幌大学後援会総会
日時/平成26年6月7日(土) 午前11時
会場/札幌大学2204教室
「昨年度の事業報告から今年度の計画を発表、全ての活動が承認されました」
総会は定刻通り、午前11時に猪狩会長の挨拶から始まり、議事進行も猪狩会長が務め、まず平成25年度事業報告が行われました。ここで会費の納入状況と



札幌大学保護者懇談会

日時/平成26年6月7日(土) 午後1時
会場/札幌大学プレアホールほか

「保護者懇談会」は後援会総会と同日の午後1時より「プレアホール」にて開催されました。懇談会には主に大学3、4年生の保護者の方を中心に、お集まりいただいております。昨年からは札幌大学への入学を検討されている高校生の保護者の皆さまにもご参加いただいております。懇談会は桑原学長と後援会の猪狩会長の挨拶からスタート。続いて大学生生活全般の説明と就職状況および、その対策について、それぞれの担当者より説明がありました。特に保護者の皆さまの関心が高い就職状況説明会では、担当者より保護者の皆さまに向け、複雑化・多様化した就職活動に取り組む学生に対する「理解と見守り」をお願いするとともに、「キャリアサポートセンター」の積極的な利用を促しました。



次に、年月の経過とともに風化が懸念される東日本大震災に対する持続的な支援が「震災復興支援リムデイ・11」より呼びかけられました。続いて学生FD委員会から、学生による学生のための授業改善活動として「札大おこし隊」の画期的な試みがレポートされ、保護者の皆さまが興味深く耳を傾けられている様子が印象的でした。

最後に、札幌大学の新しい施設として「札幌大学インターネットコミュニケーションセンター(SUICC)」や「女性専用パウダールーム(SWITCH)」が紹介され、地域とともに歩む札幌大学の幅広い活動が報告されました。その後、各学部別に個別面談が開かれ、ご子女の現在の成績と日頃の学生生活、さらに就職に関する希望や活動状況など、保護者と教職員との間で熱心な話し合いが行われました。懇談会は9月と10月にも道内各地および東北においても開催し、多くのご出席をいただきました。

会員の皆様には、日頃より後援会活動にご理解、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。2001年度以降長きに亘って会長を務めていただいた対馬徳昭氏に代わって、昨年度から後援会会長を仰せつかりました猪狩哲夫と申します。私自身、札幌大学の卒業生で、このような形で母校のお役に立つことができることは大変光栄なことと感謝しております。

ご存知のとおり、大学は1967年創立以来、今年で47年目を迎えました。本会としましては、創立50周年の記念すべき時代に向け、前述の取り組みが、目に見えた形で着実に進化を遂げることで、新生「札大」として実を結ぶことを切に願い、大学との連携に努める所存です。

一方、平成元年に設立した本学後援会は、これまで多くの父母の皆様によるご尽力により運営し今年で26年を迎えます。会員の皆様のご子女に対する支援事業として、(1)札幌大学奨学金制度、(2)学外研修援助金制度、(3)資格取得等奨励援助金制度への資金支援、(4)課外活動における全国大会等出場時の遠征費補助、(5)外国人留学生への修学費援助等を基本線として、相応の成果に繋げております。また、後援会事業の重要な柱の一つとして「保護者懇談会」を札幌大学のほかに、道内6会場、東北1会場で実施、さらには年2回発信する「後援会だより」で多方面の支援状況等を紹介しております。

諸事業を展開する後援会の役割は、会員の皆さまと大学との橋渡し役としてますます重要になるものと認識しております。これまで培われてきた札幌大学の伝統と特色を堅持していくためにも、今後も会員の皆様のご意見を伺いながら、ご子女が多面で充実した大学生活を送れるよう、一層の努力を傾注して参りますので、忌憚のないご意見をいただきましたら幸いです。

最後になりますが、在学生一人ひとりはもちろん、会員の皆さまにとっても保護者の視点で有意義な後援会となるよう、この1年間活動して参りますので、どうか会員の皆様におかれましては、深いご理解をいただき、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

参加された保護者の声

- 全体説明の内容について**
○やる気の出る制度は本人次第ではチャンスがたくさん!!高校では勉強する機会がなかった子でも、まだまだやり直せるチャンスがある大学だと感じました。本学にさせて良かったと実感。
- 保護者懇談会または本学について**
○4年生の親ですが、希望する就職の内定もとれましたし、部活もがんばれましたし、とても充実した学生生活をおくれました。札幌大学にとても感謝しております。札幌大学を選んで本当に良かったと思っています。ただ、高校に対して札大のCMが足りないと思います。
- 個別懇談での説明・対応について**
○不安に思っていたことを丁寧に説明していただいて、安心できました。これからもよろしくお願いたします。
○地方から参加したが、アドバイザーの先生と話が出来てよかったです。

CONTENTS

- 札幌大学後援会総会
- 保護者懇談会
- 保護者アンケート
- 後援会会長あいさつ……………1面
- 課外活動報告(陸上競技部)
- 役員改選
- 文化系サークル補助金交付式……………2面
- バンフィック大学オレゴン校訪問記
- 就職状況……………3面
- 平成25年度事業活動及び
- 平成26年度事業計画……………4面

後援会会長 あいさつ

会長 猪狩 哲夫
札幌大学経済学部経済学科97年度卒業
株式会社キムラ相談役 株式会社シヨウブル工業 常勤監査役

リレーを含む5種目で優勝し、 全国大会に14人が出場！ 北海道から旋風を起こす大活躍を!!

「全国で戦えるチームづくりを!」。そんなスローガンを掲げて練習を重ねてきた札幌大学陸上競技部が今年、北海道インカレにおいて5種目で優勝を飾り、日本インカレへ14名もの選手を送り出すことになりました。今回はその強さの秘密に迫ります。



チームワークを大切にする一方で、 個のスピードアップも!

「選手の自主性を尊重し、部員同士が切磋琢磨するなかから個のスピードアップをめざしました」と、森監督に陸上部が取り組んできた強化策を語っていただきました。その言葉の通り、本学陸上部は「課外活動推薦」によって、全道各地から集まった陸上経験者を中心に、練習メニューの質と量をアップ。

主将を務める長谷川さんは、「札幌陸上部という一つのチームではありませんが、個人競技が主なので、お互いに切磋琢磨して練習してきたことが良かったと思います。練習内容については、監督が自分たちの意見を取り入れてくれるので、体調や目標に沿った練習ができるようになっていきます」。

副主将の織江さんは、「特に冬期のトレーニングの充実を図ってきたことにより、フィジカル面を強化できたことが良い結果に繋がったと思っています」と補足してくれました。

また、「特に試合前は自分なりに調整したいと思う部分があるのですが、監督と話し合せて、その意見を尊重していただきました。好成績を取めることができました。そうした部の雰囲気大きいですね」と小堀さん。

この日参加したなかで唯一の2年生、芥川さんは「普段は和気あいあいとやっているんですが、練習になると切り替えて真剣にやっています」。それも陸上部の強さを語る上では欠かせない要因だと言います。

森監督は、「今回我が陸上部は、男子100M、200M、400Mの個人種目のほかに、男子4×100Mと、4×400Mのリレーでも優勝することができました。これは本学として24年ぶりの快挙です。走順は選手の個性を見きわめ、また、ライバル校の走順も意識しながら、一走には一走の、二走には二走に適した選手を選びました。これが見事にハマりましたね。期待どおりの働きを各走順で見せてくれました」。



文化学部文化学科3年生
主将 長谷川 隼人 さん

「監督はそれだけ私たち選手一人ひとりをよく見てくれているのだと思います」と長谷川さんの言う通り、今回の優秀な成績の背景には緻密な戦略もあったようです。



学生支援オフィス 学生担当・FD担当
課外活動支援室担当
監督 森 義郎 さん

競技だけでなく、社会で求められる 礼儀や知識を徹底指導!!

陸上部が優秀な成績を取めた背景にあるものは、練習質量のアップと戦略面の成功があっただけではありません。陸上部の決まりごととして、森監督は4つの約束を部員に守らせています。

第一に授業を疎かにしないこと。これは学生の本分はあくまで学業にあると捉え、成績不良のものは練習に参加させないという線引きをしています。第二に言葉づかいや礼儀を重んじていること。部活動を通して、スポーツマンに相応しい態度を身につけることが大切だという考えから、特に厳しい指導が行われています。そして第三に大学行事やボランティアに積極的に参加すること。部員は学業や練習の合間に、スポーツ・文化総合型クラブ「めいづ」の主催する交流活動や地域主催のイベントに自主的に参加。さまざまな活動を展開しています。

長谷川さんと織江さんは、「交通安全旗振りや豊平おもしろスノーパークなど、さまざまなイベントを通して学外のさまざまな年齢層の方と交流できるので、社会性というか、コミュニケーション能力が身に付きました」と喜びを語ってくれました。



経営学部経営学科3年生
小堀 凌 さん



経営学部経営学科3年生
副主将 織江 勇汰 さん

まざままイベントを通して学外のさまざまな年齢層の方と交流できるので、社会性というか、コミュニケーション能力が身に付きました」と喜びを語ってくれました。

小堀さん芥川さんは、「子どもたちと触れ合った、『かけっこ教室』が印象に残っている」と言います。特に芥川さんは、「2年連続で参加しているんですが、昨年コーチした子どもが、速く走れるようになったと報告にきてくれました。今後参加して、子どもたちに走る楽しさを伝えたいですね」と笑顔。

そして4つ目の決まりは、「周囲への感謝を忘れないこと。これは、今自分たちが陸上に専念できているのは、周囲の理解と応援があればこそという事実を自覚してほしい。今回、後援会さまに、このように紙面で取り上げていただいたこと、そして全国大会の遠征の際に補助金をいただいていることなど、多くの支えがあったことその今回の結果だと思っています。今後後援会さま、保護者の皆さまをはじめ、応援してくださっている方々のご期待に応えられるよう取り組んでいきたいです」と森監督は言います。陸上部の強さは、こうした真摯な姿勢からも培われているようです。

今後の目標は全国大会での決勝進出。全国で戦える走力を身につけることと全員が口を揃えます。24年ぶりの好成績を機に、陸上部の新たな伝統が今、改めて築かれつつあります。



地域共創学群経営学専攻2年生
芥川 翔太 さん

後援会役員改選のお知らせ

平成26年度、札幌大学後援会の役員は左記のように改選されましたので、お知らせ致します。

札幌大学後援会役員名簿

役職	氏名	担当
会長	猪狩 哲夫	総括・財務
副会長	日浦 和長	事業
"	北崎 義弘	広報
"	宮本 みどり	"
"	太細 博文	事業
監事	戸井 敏夫	
"	三ツ木 芳夫	
運営委員	酒井 春樹	事業
"	寒河江 正人	"
"	上野 洋子	広報



新副会長
宮本 みどり さん



新副会長
太細 博文 さん

平成26年6月7日開催の後援会総会における決議により、次の方々が役員を退任されました。旧役員の方々には、これまで大変長きにわたりご尽力賜りましたこと、心より感謝申しあげます。

- 副会長 土谷 享 副会長 福井 敬悟
- 副会長 下澤 敏也 監事 佐々木 忠則
- 運営委員 野橋 孝実

学生生活の「層の充実を願い、課外活動を援助 文化系サークル補助金交付式

日時/平成26年6月24日(火) 午後12時
会場/第一会議室

後援会では体育会系だけではなく、文化連合会所属のサークルに対しても補助・支援を行っています。今年、補助申請のあったサークルは5団体。その各サークルに対象とした補助金交付式が今年も挙行されました。式は後援会役員の紹介から始まり、続いて猪狩会長が挨拶に立ちました。会長は各サークルの代表を前に「今年皆さんに一生懸命がカッコいいという言葉を送ります」と述べられました。

その言葉の意味は、「グールジャパン」と言われる昨今、日本の伝統的な文化やサブカルチャーが評価され、見直されていることを例に出し、その背景に真面目に取り組んできた職人



平成26年度 文化系サークル補助金交付式

たちの仕事があることを解説されました。職人たちの真摯な姿勢が「グールジャパン」と評価される所以であることから、「課外活動に励む学生諸君もカッコいいと評価されるように、それぞれの分野で真面目に取り組んでほしい」と希望を述べられました。

補助金の交付に対し、大学を代表して鈴木副学長が感謝の辞を述べられ、続いて各サークルに目録が手渡されました。各代表は感謝の言葉とともに、援助金を有効利用することを誓い、式は無事終了。後援会では今後も課外活動をバックアップしていく方針であり、多くの団体からの申請をお待ちしています。

交換留学促進に向け、パシフィック大学オレゴン校を訪問!!

国際化の進展した現代社会では、日本語だけではなく、世界のさまざまな言語と文化を学んでいく必要に迫られています。留学はその最大のチャンスと言えるでしょう。本学は世界各国の大学と交流協定を結んでおり、留学の可能性が広がっています。そこで今回は、国際交流を担当している山崎教授に、大学側の取り組みとサポート態勢についてお聞きしました。



語学教育において高いレベルを誇るパシフィック大学オレゴン校を訪問

広く世界に目を向け、国際感覚を養ってもらうと、札幌大学では早くから海外留学を促進してきました。現在本学は、アメリカや中国、韓国など海外10カ国・地域28大学と交流協定を結んでおり、これまで多くの学生が海外に旅立ってきました。一方、世界各国から多くの学生が本学への留学を果たしており、日本語および日本の文化を幅広く学んでいます。こうした交換留学の促進に当たっているのが、副学長補の山崎真紀子教授です。先生は国際交流担当として、海外の大学との交流協定に基づく学生の派遣と受け入れ、それに伴うさまざまな支援に尽力されています。

「私は協定校との交換留学や語学研修など具体的な交流方法を考えるとともに、大学間の信頼関係を構築し、自信を持って薦められる留学制度の提供に努めています。」

しかし近年、留学制度を利用する学生数が減少傾向にあるため、本学は協定校とのより強固な交流促進に乗り出しました。折しも本年は、札幌市と米国ポートランド市の姉妹都市提携55周年にあたり、記念行事の一環として札幌国際プラザ主催の視察旅行が行われました。そこに札幌大学国際交流フォーラム副幹事長として山崎教授が視察に参加されました。



インターナショナルスチューデントアドバイザーのメーガン・セレンコさんと

札幌圏大学国際交流フォーラムとは、札幌圏の22の大学が結集して学生の留学や海外との学生交流を活発にしていこうと組織。国際プラザが事務局を担っています。今回、記念行事に参加した目的の一つに本学が協定を結んでいる協定校のパシフィック大学オレゴン校のあるポートランドという街全体の雰囲気を感じておくことがありました。「週末にはバスを利用して本学の留学生もポートランドの街中に遊びに来ることでしょ。街は学生を育てます。どのような環境なのかこの目で確かめたかったです。」

札幌市の姉妹都市ということもあり、留学を促進すべき地域とは思ってはいませんが、予想以上に美しく安全で文化の香りも高い都市であり、安心して送り出せることを確信しました。」と山崎教授は言います。ポートランド市の近郊に建つ同校と本学は、平成23年に協定校としての書面を交わしましたが、未だ交換留学が行われていないという現状があります。

「オレゴン校では、日本への留学経験がある女性スタッフに案内していただき、学内見学の好機に恵まれました。キャンパスは大変美しく、寮を中心に内部まで見学することができました。現地は治安も良く、学生街もあって、周辺環境はとて快適でした」と、先生は同校の素晴らしい素晴らしを確認。さらに、「語学教育のメソッドが素晴らしい」と、先ずは短期語学研修に参加し、留学への興味や語学を学ぶモチベーションを高める」と期待

待を寄せています。先生は早速、札幌圏大学国際フォーラム参加の複数校の学生を集めて同校に送り出す計画を考えているそうです。

留学は人生の枝葉ではなく、幹を育てる貴重な機会

大学の4年間は人生の中で最もいろいろなものを吸収できる年代。それだけに山崎教授から、「国内にいてもいろいろなことが経験できますが、海外に飛び出したら異文化に触れることにより得られるものは計り知れません。それは人としての成長を促すものではなく、幹となり得るもの。掛け替えのない経験になると思いますので、是非歩み出してほしい」とのメッセージをいただきました。



地域共創学群 教授 副学長補 博士(文学) 山崎 真紀子 さん

先に述べた通り、本学では留学に関する下支えを行っており、万全のサポート態勢を整えています。札幌圏国際フォーラムでも留学や語学研修における安全管理に関する研修会も度々行われ、国際交流に関わる教職員は常に新たな情報を手に入れるように努めているそうです。さらに本学では、学生が留学に当たって躊躇してしまいう原因である単位互換制度の整備や奨学金の支給、協定校のキャンパス内や周辺環境を注意深くチェックし、生活相談にも応じるなど、留学に関する不安や煩雑な準備を取り除き、安心・安全な留学生活の提供に努めています。

「私自身も今回訪米してアメリカ人の心のゆとりというか、フレンドリーな対応に感動しました。国家対国家といった大きな単位ではなく、先ずは身近な友だちづくり。外国の友が話している言葉を理解したい、そんな目的でも良いと思います。学生が留学して良かったと喜んでくれる、そんな笑顔を想像して頑張っています」と山崎教授。保護者の皆様にもご子女の背中を押してほしいと言います。本学の充実した留学制度を是非ご利用ください。

先述のとおり、本学では留学に関する下支えを行っており、万全のサポート態勢を整えています。札幌圏国際フォーラムでも留学や語学研修における安全管理に関する研修会も度々行われ、国際交流に関わる教職員は常に新たな情報を手に入れるように努めているそうです。さらに本学では、学生が留学に当たって躊躇してしまいう原因である単位互換制度の整備や奨学金の支給、協定校のキャンパス内や周辺環境を注意深くチェックし、生活相談にも応じるなど、留学に関する不安や煩雑な準備を取り除き、安心・安全な留学生活の提供に努めています。

平成25年度卒業生の求人状況・就職状況

就職決定状況
大学の決定率は86.0%で、昨年度比2.9ポイントの増加となり、厳しい就職環境にありながらも、改善する傾向を示す結果となっています。

また、卒業者数906人に占める就職者数(582人)の割合は、64.2%(昨年度比5.8ポイント増)です。

短大の就職決定率は94.4%となり、昨年度比で5.1ポイントの増加です。

業種別就職比率
大学は、サービス業28.4%(昨年22.1%)、小売業18.9%(昨年22.7%)、公務員・教員11.3%(昨年10.8%)、卸売業10.8%(昨年14.2%)において2桁の割合を示しています。

短大は、金融・保険業29.4%(昨年20.0%)、小売業23.5%(昨年32.0%)、サービス業23.5%(昨年28.0%)において2桁の割合となっています。

求人件数
大学を対象とする求人件数の総数は2,927件(昨年2,636件)、うち道内企業の求人件数も794件(昨年689件)と増加しました。

短大においても、1,486件(昨年1,296件)、うち道内企業の求人件数が455件(昨年386件)となり、就職希望者の数から見ると短大生にとっては明るい求人内容となりました。

就職決定状況 (大学) (平成26年3月31日現在)

学部学科	区分	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率	前年度就職決定率
経済	経済	172	142	123	86.6%	81.2%
	外国語	79	67	60	89.6%	87.3%
	ロシア語	12	7	6	85.7%	80.0%
経営	経営	264	191	167	87.4%	84.8%
	ビジネスコミュニケーション	1	0	0	0.0%	100.0%
法	法	165	138	123	89.1%	83.2%
	自治行政	1	0	0	0.0%	50.0%
文化	日本語・日本文化	1	1	0	0.0%	0.0%
	文化	211	131	103	78.6%	81.0%
合計		906	677	582	86.0%	83.1%

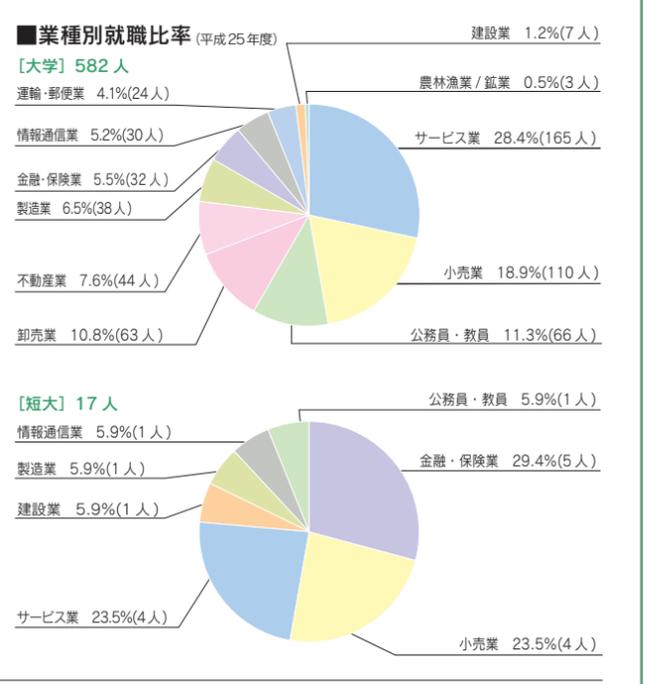
就職決定状況 (女子短期大学部) (平成26年3月31日現在)

学科	区分	卒業者数	就職希望者数	就職決定者数	就職決定率	前年度就職決定率
英文		9	7	6	85.7%	75.0%
経営		19	11	11	100.0%	91.7%
合計		28	18	17	94.4%	89.3%

注1)：決定率の算出方法は、就職決定者数を就職希望者数で割ったものである。

平成26年3月卒業生の主な就職先

大学 (株)北洋銀行 / (株)北海道銀行 / 札幌中央信用組合 / 東日本旅客鉄道(株) / 北海道旅客鉄道(株) / 北海道エア・ウォーター(株) / 北海道キリンビバレッジ(株) / (株)柳月 / イオン北海道(株) / (株)ツルハ / (株)サッポロドラッグストア / (株)東急百貨店 / 北海道空港(株) / ANA新千歳空港(株) / (株)JALスカイ札幌 / (株)エイチ・アイ・エス / (株)JT北海道 / (株)日本旅行北海道 / 生活協同組合コープさっぽろ / 日本郵便(株)ほか



短大 (株)北洋銀行 / (株)北海道銀行 / 札幌中央信用組合 / (株)札幌丸井三越 / (株)JT B札幌ビジネスセンター / (株)サッポロドラッグストア / (株)グランピスタホテル&リゾート / (株)羽田エアポートエンタープライズ / 社団法人札幌ゴルフ倶楽部 / (株)RMC / (株)ヤシマ商会 / (株)イシカリデリカほか

平成25年度事業活動及び平成26年度事業計画

平成25年度事業活動

(1) 補助事業

①課外活動への補助

交付団体名	大会名	支出金額
サッカー部	第11回インデペンデンス全日本大学サッカーフェスティバル	151,200
	第62回全日本大学サッカー選手権大会	107,100
女子サッカー部	第22回全日本大学女子サッカー選手権大会	44,100
男子バレーボール部	第32回東日本バレーボール大学選手権大会	132,300
女子バレーボール部	第60回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会	94,500
男子バスケットボール部	第65回全日本大学バスケットボール選手権大会	264,600
女子バスケットボール部	第65回全日本大学バスケットボール選手権大会	302,400
卓球部	第80回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	12,600
弓道部	第61回全日本学生弓道選手権大会	79,800
剣道部	第61回全日本学生剣道選手権大会	67,200
	第61回全日本学生剣道優勝大会	67,200
	第32回全日本女子学生剣道優勝大会	58,800
柔道部	平成25年度全日本学生柔道優勝大会	81,900
	平成25年度全日本学生柔道体重別選手権大会	44,100
	平成25年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会	94,500
準硬式野球部	第31回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	42,000
陸上競技部	第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会	31,500
女子羽球部	第64回全日本学生バドミントン選手権大会	73,500
スケート部	第14回全日本アイスホッケー交流戦苫小牧大会	210,000
	第86回日本学生氷上競技会選手権大会	201,600
ソフトテニス部	第20回日本シングルスソフトテニス選手権大会	6,300
硬式庭球部	平成25年度全日本学生テニス選手権大会	18,900
	第50回全日本学生室内テニス選手権大会	12,600
ゴルフ部	第67回日本学生ゴルフ選手権大会	16,800
	第60回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権	16,800
ラグビー部	第64回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会	151,200
チアリーディング部	第25回全日本学生チアリーディング選手権大会	50,400
吹奏楽団	第61回全日本吹奏楽コンクール	189,000
20団体	小計	2,622,900

交付団体名	文化系サークルの活動内容	支出金額
アマチュア無線部	道内を移動し無線の交信を行う	50,000
ジャズ研究会	定期演奏会	50,000
写真部	市民ギャラリーでの写真展	50,000
書道部	札幌大学美術部との合同作品展	50,000
ユニセフネットワーク	健康づくりのためのウォーキング	10,000
美術部	札幌大学書道部との合同作品展	50,000
軽音楽部	札幌国際大学との合同チャリティーライブ	50,000
アビーロード音楽研究会	12月定期演奏会	50,000
アニメーション部		50,000
民俗音楽研究部	12月定期演奏会	50,000
10団体	小計	460,000

課外活動への補助金合計 3,082,900円

- ②札幌大学奨学金への援助.....10,000,000円
- ③札幌大学学外研修援助金.....4,000,000円
- ④札幌大学資格取得等奨励援助金.....2,000,000円
- ⑤外国人留学生への援助.....5,500,000円
- ⑥札幌大学大学祭への補助金.....50,000円
- ⑦卒業祝賀会への補助金.....50,000円
- ⑧札幌大学保護者懇談会に係る旅費への補助金.....1,185,420円
- ⑨札幌大学地域スポーツ・文化総合型クラブへの補助金.....500,000円

補助費支出合計 26,368,320円

(2) 札幌大学保護者懇談会

開催地	開催日	参加人数
札幌 (札幌大学)	6月 8日 (土)	197
札幌 (札幌大学)	9月22日 (日)	153
釧路 (釧路東急イン)	9月 7日 (土)	16
帯広 (帯広東急イン)	9月 8日 (日)	19
北見 (北見ピアソンホテル)	9月14日 (土)	14
旭川 (ロワジールホテル旭川)	9月15日 (日)	16
青森 (青森グランドホテル)	10月 5日 (土)	8
函館 (函館国際ホテル)	10月 6日 (日)	25
苫小牧 (グランドホテルニュー王子)	10月13日 (日)	16
合計		464



保護者懇談会は6月、9月～10月に全道各地と東北で開かれます。

就職をはじめ、さまざまなご質問やご相談にもお応えしています。



昨年の懇談会の様子 (札幌)

(3) 【広報活動について】

「後援会だより」を10月30日、3月31日付けの年2回発行

(4) 札幌大学後援会総会

日時：平成25年6月8日(土) 場所：札幌大学 2204教室

(5) 札幌大学後援会役員会

(第1回)

日時：平成25年5月23日(木) 場所：札幌大学 第1会議室

(第2回)

日時：平成25年6月8日(土) 場所：札幌大学 第1会議室

(第3回)

日時：平成25年8月27日(火) 場所：札幌大学 第1会議室

平成25年度決算書

平成25年度収支計算書 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

単位：円

科目	予算	決算額	増・減
収入の部			
前年度繰越金	62,783,587	62,783,587	0
第一種会員会費	33,000,000	33,850,000	850,000
第二種会員会費	180,000	192,000	12,000
第三種会員会費	0	0	0
利息	20,000	18,079	△1,921
基金取崩収入	0	0	0
合計	95,983,587	96,843,666	860,079
支出の部			
基金充当金	0	0	0
補助費	28,200,000	26,368,320	△1,831,680
消耗品費	70,000	23,798	△46,202
旅費交通費	450,000	346,920	△103,080
印刷費	1,070,000	1,021,860	△48,140
通信費	1,100,000	864,778	△235,222
支払手数料	50,000	9,711	△40,289
会議渉外費	1,970,000	1,417,808	△552,192
予備費	200,000	0	△200,000
小計	33,110,000	30,053,195	△3,056,805
当年度収支差額(次年度繰越金)	62,873,587	66,790,471	3,916,884
合計	95,983,587	96,843,666	860,079

平成25年度資産(現預金)・基金内訳表(平成26年3月31日現在)

単位：円

勘定科目	前年度繰越金	3月末	増減
《資産の部》			
現金(事務室保管)	17,644	5,567	△12,077
普通預金(北海道銀行西岡)	47,008,846	50,893,857	3,885,011
普通預金(北洋銀行豊平)	15,757,097	15,891,047	133,950
基金(北海道銀行西岡)	26,000,000	26,000,000	0
基金(北洋銀行澄川)	20,000,000	20,000,000	0
資産合計	108,783,587	112,790,471	4,006,884
《基金の部》			
基金(北海道銀行西岡)	26,000,000	26,000,000	0
基金(北洋銀行澄川)	20,000,000	20,000,000	0
収支差額(次年度繰越金)	62,783,587	66,790,471	4,006,884
基金合計	108,783,587	112,790,471	4,006,884

平成26年度事業計画

札幌大学後援会では、在学生を支援の主たる対象とし、各種支援事業を平成26年度も継続してまいります。主な事業計画は次のとおりです。

- ①後援会総会の開催(後援会活動活性化の観点から保護者懇談会【6月の札幌大学での開催】との同日開催)、②札幌大学との共催による保護者懇談会の開催(会議費、旅費交通費等の運営経費を補助)、③学生への経済的支援(1)課外活動への援助金(全国大会及びこれに準ずる大会等へ参加する部員への遠征費補助、文化系サークルの活動費を補助)、(2)学外研修への援助金(国内外の宿泊研修、臨地研修等への参加者への資金)、(3)資格取得・受験対策への援助金(能力開発センター開講講座の資格取得者への援助金、正課授業に係る資格の受験者への援助金)、(4)外国人留学生への援助金(私費外国人留学生奨学金制度における資金補助)、(5)札幌大学奨学金制度への援助金(成績優秀者に対する奨学金資金の援助、また23年度からは経済的困窮度を重視した生活支援奨学金の援助)、(6)地域貢献活動への援助金(めえーずの活動資金を補助)、(7)広報活動(『後援会だより』の発行)

平成26年度収支予算

収入の部 単位：円

科目	平成25年度決算	平成26年度予算額	増減額(決算額比)	摘要
前年度繰越金	62,783,587	66,790,471	4,006,884	
第1種会員会費	33,850,000	30,000,000	△3,850,000	10,000円×3,000人=30,000,000
第2種会員会費	192,000	180,000	△12,000	3,000円×60口
第3種会員会費	0	0	0	
受取利息	18,079	20,000	1,921	
基金取崩収入	0	0	0	
合計	96,843,666	96,990,471	146,805	

支出の部

単位：円

科目	平成25年度決算	平成26年度予算額	増減額(決算額比)	摘要
補助費	26,368,320	28,100,000	1,731,680	札幌大学奨学金援助金 課外活動補助金・卒業祝賀会・大学祭 新入生学生奨励費 学外研修援助金・資格取得等奨励援助金 表彰 保護者懇談会(大学分旅費) 地域貢献費(札幌大学地域スポーツ)
消耗品費	23,798	70,000	46,202	事務用消耗品 コピー用紙
旅費交通費	346,920	450,000	103,080	役員会、保護者懇談会(地方)
印刷費	1,021,860	1,100,000	78,140	封筒作成 各種案内状 会報作成(後援会だより) 印字 その他印刷
通信費	864,778	1,100,000	235,222	後援会だより発送作業・発送費2回分、会費納入案内 役員会、総会案内・保護者懇談会等の案内他 会費納入振込手数料・業者への振込手数料
支払手数料	9,711	50,000	40,289	役員会会議費、総会・札幌会場保護者懇談会参加者昼食費、地方会場費 祝儀等
予備費	0	500,000	500,000	
小計	30,053,195	33,340,000	3,286,805	
次年度繰越金	66,790,471	63,650,471	△3,140,000	
合計	96,843,666	96,990,471	146,805	

編集後記

この9月には、道内の石狩、空知、胆振の3地方に数十年に一度の災害に警戒を呼び掛ける大雨特別警報がありました。後援会員の皆さまにおかれまして被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

昭和42年の大学開学当初には高度経済成長へと向かいつつあった日本社会も今では少子高齢化時代を迎え、本学においても過去に6,000人を超えた在学生が、現在概ね3,000人となっています。当会が学生の学びを支援する効果は、大学の取り組みと相まって、58,000人を社会に送り出し、地域社会の充実と発展に寄与して参りました。

第43号では、学内外のボランティア活動に取り組みつつ今夏の全国大会出場を果たした元気凛々な陸上部をスクープしています。また、大学は早くから海外留学を促進し、現在、海外10か国・地域28大学と交流協定を締結していることに注目し、さらなる交流促進に向けて山崎真紀子教授のパシフィック大学オレゴン校の訪問記も盛り込みました。社会から大きな関心が寄せられる就職についても、相応に自負できる就職率、また就職先に焦点をあてています。

今後も後援会の視点で大学の情報を発信する際の参考とさせていただきますので、ぜひ皆さまの忌憚のないご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。